知症の方を支えるいろいろ」も紹介され、総合相談先などについて説明されました。今回で上野さんは、認知症サポーター養成講座が１５１回目を数えていることをお話していました。

石狩市に住む人が安心して、老いてもなお元気に暮らしていけるようにする取り組みに触れることができました。自治体が、地域の人と協力し、地域の声を大切に、粘り強く取り組んでいることは、住民の人たちが安心し、信頼できる地域づくりに参加できると思いました。

「障がいのある人も、お年よりも、いろいろな人の願いを大切にすること」、「お互いに学びながら、協力していけること」を考え、できることに向かって行きたいと思います。

◆認知症サポーターとは？

・高齢者人口の増加による認知症対策として厚生労働省が２００５年から始めた制度で、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者となることを目的としています。
「認知症サポーター養成講座」を受けると「認知症サポーター」に認定され、その証として「オレンジリング（ブレスレット）」が付与されます。
・平成 29年 3月末現在、全国で ８８３万人を超える認知症サポーターが誕生しています。地域住民、金融機関やスーパーマーケットの従業員、小・中・高等学校の生徒など様々な方が認知症の方を支援しています。

石狩市民生委員障がい者福祉部会の皆さまとの懇談会が開催されました！！

世話人　角田大輔

去る４月２８日に「石狩市民生児童委員連合協議会　障がい福祉部会」の皆さまと「P&Aいしかり」世話人による懇談会が開催されました。

懇談会では、「P&Aいしかり」の活動内容や身近な事例の紹介、また、障がい者に限らず地域で当たり前のように暮らすことが困難な方への全国各地での様々な取り組みについて、映像を交えて紹介させていただき、その後、地域における課題や素朴な疑問など、様々な意見交換がおこなわれました。

その中でのいくつかのご意見をご紹介させていただきます。

〇担当地域にグループホームがあるのだが、入居者やスタッフとなかなか接点がつくれない…
〇グループホーム入居者が市外に住民登録があるなどの理由で、災害時の避難行動要支援者名簿に記載されていない…
週末の在不在やイベント予定など、互いに情報を発信しあえるよう窓口や連絡体制を整備することや、避難行動要支援者名簿記載の手続き内容について確認しあいました。

〇障がいのある家族がいる場合、外に出したがらない、隠したいという思いの強い家庭もあるのでは？
「自分の息子が子どもの頃は誰にも頼ることができず、家族だけで頑張るしかなかったが、今は使えるサービスも増え、親の意識も変わってきたので、昔に比べるとオープンになっているのではないか」という変化もある一方で、石狩の中でもすくい上げられていない深刻なケースがあることも報告されました。

〇バスなどで、大きな声を出している方をみかけたことがあるが、どのように関わったら良いのだろうか？
放っておけない状況であれば、運転手に対応をお願いし、どうしても声をかけた方がよい状況であれば、注意をするのではなく、穏やかな口調で名前などを聞いてみるなども場合によっては必要。

その他にも色々な意見交換が活発におこなわれました。

地域の中で、気になること、心配なこと、困ったことがあった場合、「誰に伝えたら良いのか？」が、はっきりしないまま見過ごされることがあります。地域で暮らす私たち一人一人が意識することも必要ですが、「つなげる」ための体制の整備が何より重要であることを改めて感じるとともに、その橋渡し役である、民生委員の皆さまの役割の重要性や大変さも強く感じました。

民生委員の皆さま、お忙しい中、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

民生委員の方々に、ＰＡＩの活動を知っていただく機会になり、本当に良かったと思えました。懇談の中では、日々地域の中で活動されている内容の一端を聞かせていただき、石狩の中で連携できるように一つずつ、繋がっていく事の大切さを感じました。

世話人　伊藤邦子

大変良い時間を過ごさせていただき感謝しています。多くの刺激を受けました。Ｐ＆Ａいしかりの活動は地に足をつけ少しずつ前へ・・・そして民生委員の方はもちろん、地域の方々とのつながりをもっと厚く熱く強くして行くにはどのような行動をＰ＆Ａいしかりとして動かなければいけないのか改めて強くしました。

世話人代表　佐々木公子

民生委員の方々との懇談を通しての感想として、日頃の生活の中で、細かに気配りをしてくださっていることに、あらためて感謝します。バスでの出来事も実際、自分が遭遇する可能性もあり、考えてしましました。

世話人　石尾郁子

民生委員の方々が、日常、障がい者の支援活動をされている中での貴重な体験談を聞かせていただき、またその共通の課題を感じることができました。

特に、その中で、「日常、障がい者の方の活動への理解や見守りは出来る」が「実際、困った場面に遭遇した時、具体的にどのような対応をすれば良いのか、戸惑う場面が経験として多々ある」との意見がありました。
地域の方々に、多様にある障害の特性について理解を得ることに、まだまだ乏しい状況にあることを感じました。

今後、私たち(ＰＡＩ)の活動は、さらに地域、公共機関へ「多くの繋がりを作り、多くの地域の方々に伝えていくことが重要ではないか」そのような課題を与えていただいた気がします。

世話人　堤　伸子

日ごろ、民生委員の方達が地域での活動する様子やご苦労されていることに改めて頭の下がる思いです。日々地域で起きている問題に向き合い、そこに生活している一人一人の人達の安心と幸せのために活躍されていることに頼もしく感じました。このような懇談会をこれからも大切に続け、協力して行けることを願っています。懇談会を開催していただいた安保部長に心からお礼申し上げます。

世話人　遠藤健治

P＆Aいしかり
活動広報
第２０号
2017年5月15日

どんな障がいがあっても、安心して地域で暮らしていけるようにしたい！
障がいのある人への良き理解者を増やし、広げたい！

P＆Aいしかり事務局　http://p-a-ishikari.jimdo.com/
石狩市障がい者支援センター（石狩市樽川519-2）
TEL　0133－73－8868　FAX　0133－73－8869
発行責任者　佐々木公子

事前お知らせ

１９のいのちが奪われた
相模原障がい者殺傷事件を共に考える集い

平成２８年７月２６日、神奈川県相模原市にある知的障がい者支援施設（入所施設）「津久井やまゆり園」で入所者など４６人が次々に刃物で刺され１９名の方々がその尊い命を失うという、痛ましい事件が起きました。
この事件を単なる事件として風化させず、あらためて共に考えていく機会をとＰ＆Ａいしかり世話人では考えてきました。この度は日本グループホーム学会代表であり、障がい者当事者の本人会活動を長年支援してきた松泉グループ総合施設長の光増昌久氏を招いて、（仮称）「相模原障がい者殺傷事件を共に考える集い」を開催することになりました。

日　時：　６月２９日（木）１０：００～１２：００
会　場：　石狩市保健福祉総合センター「りんくる」

詳細が決まり次第、正式にご案内させていただきます。

NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」から

２０１４年7月7日NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」で「地域の絆で、”無縁”を包むコミュニティーソーシャルワーカー・勝部麗子」と題して大阪府豊中市社会福祉協議会の勝部麗子さんが紹介されました。今年３月２０日小樽で「声なき声が社会を変える　～やさしさ・絆　みんなをつなぐ～」と題して、地域福祉フォーラムが開かれ、そこに勝部さんも講師としてこられ講演されました。勝部さんをモデルとしたNHKドラマ１０　サイレントプアの一コマを織り交ぜながらこれまでの取り組みが紹介されました。

是非、以下ホームページをご覧ください。

NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」から
http://www.nhk.or.jp/professional/2014/0707/

“あなたを気にしている”人がここにいます
地域からの、声なきＳＯＳに向き合う勝部。訪問しても、すぐに相手に会えるわけではない。そんなとき、勝部が必ず使うのが“名刺”だ。心を閉ざす相手に向けて、名刺の裏側にメッセージを書き込み、その場に残すことを繰り返す。「助けて」と声を上げられない人へ「あなたを気にしている人がここにいます」という思いを、発信し続けるためだ。
２年間会えなかったごみ屋敷に住む人とも会うことが出来た。閉ざされた心の扉を開き、信頼関係を築く第１歩として、勝部はメッセージを発信し続ける。
私たちは、諦めない。コミュニティソーシャルワーカー勝部の信条は、目の前の困っている人から逃げないこと、そして、「諦めないこと」。ごみ屋敷、ひきこもり、孤独死…既存の制度では救えない、“制度の狭間にある人たち”を支えるために、勝部はこの姿勢を崩さない。・・・・・

平成２９年２月２２日（水）開催された
認知症サポーター養成講座に参加して

世話人　遠藤健治

当日は、前の日までの吹雪いていた天気もおさまり穏やかな日になりました。
会場に着くのが時間ぎりぎりになり、受付を終えて、空いている席に座ると、すぐに講座が始まりました。
認知症の養成講座には初めての参加でした。
石狩市保健福祉部高齢者支援課の上野さん、キャラバン・メイトの渡辺さん（（福）悠生会　介護老人福祉施設白ゆりあいの里）が講師となり、講座が進みました。
上野さんからは、石狩市の高齢者・認知症者の状況や認知症の人数、養成講座の目的などについて説明がありました。
渡辺さんからは、認知症を理解するというテーマで「認知症とは」、「認知症の症状とは」、「具体的な対応方法」などについて参加者と話し合いながらわかりやすく進めてくれました。
参加者の家族や身近な人には、認知症の方もおられ、参加者の皆さん一人一人が自分のこととして真剣に熱心に話し合い、より良い方向を考えることができました。参加者から、両親が不安になり、「こんなはずじゃなかった」と泣いてくるので、「大丈夫だよ」と話しかけているが、「それでいいのかな」と質問がありました。それについて、「何か解決を求めているのではなく、同じことを繰り返すことで安心しているので良く聞いてあげる」などと丁寧な対応の仕方について学んでいきました。
また、「自分の家じゃない」と家を出て行く人への対応をどうするか、介護している家族に「お前がどろぼー」と介護者が言われたときにどうするか、「ご飯食べていない」とご飯を食べた後に言ってきたらどうするかなどグループに別れ、話し合い、その結果を全体で意見交換しました。
認知症の方が地域で暮らすためには、どうしたら良いのか、何ができるのかについて話しました。

その人を支える町内会、自治体との関係づくり、身近な人の声がけなどのネットワークが必要ではないかなどの　意見が出されました。
認知症の予防については、週２回程度、２０～３０分以上軽い息切れや発汗程度の運動に取り組むことが紹介されました。
石狩市の上野さんからは、資料として「石狩市の認